

講義コード	513142601	
講義名	美術史	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B 群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	花田 千絵	指定なし
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

授業の概要

パワーポイント（図、写真など）を見て、作品やその背景にある文化や主義について学び、優れた美術作品のよさを理解する。後半の授業では、美術史の中から興味のあるテーマを選択し調査研究し、お話として、子どもがわかりやすい表現方法（例：紙芝居、パネルシアター、パワーポイントを利用したアニメーション、クレイアニメ等）で発表することで、美術史への理解を深める。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

授業では、パワーポイント、配布印刷物を活用し、場合によってはオンライン上の動画を視聴する。

②授業形態

講義形式で美術作品やその周辺について学ぶ。後半の演習課題では受講人数に応じて、個人またはグループでテーマ・発表方法を選び、調べ学習と発表をする。

③アクティブラーニング

講義では、各回の授業で適時質問をするので、主体的に考えて意見を発表する機会がある。同時に他者の意見も聞き、それらの積み重ねにより美に対する判断力を養っていく。

後半の演習では、調査学習、プレゼンテーションを行う。

④課題に対するフィードバックの方法

確認テストを採点後、返却時に解答の解説を行う。演習課題は相互評価と振り返りを行い、授業時にコメントし、授業後に掲示する。

第1回 オリエンテーション、美術史について

第2回 人は何を描いてきたか

第3回 現在の美術

第4回 風刺、ストリートアート

第5回 先史美術～メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ海美術

第6回 ギリシア美術（彫刻）・中世キリスト教の美術・ルネサンス

第7回 光と影・描かれてきたもの・印象派

第8回 キュビズム・シュルレアリスム

第9回 ランドアート

第10回 アートにまつわるエトセトラ研究発表 (1) テーマの設定・調査・研究

第11回 アートにまつわるエトセトラ研究発表 (2) 発表方法の検討・製作

第12回 アートにまつわるエトセトラ研究発表 (3) 製作・準備

第13回 アートにまつわるエトセトラ研究発表 (4) 練習

第14回 アートにまつわるエトセトラ研究発表 (5) 発表・観賞

第15回 アートにまつわるエトセトラ研究発表 (6) 評価・振り返り

授業の到達目標及びテーマ

西洋美術を中心に美術作品を鑑賞することを通して、美的感覚を豊かにし、美に対する判断力を養う。授業の到達目標は、作品とその背景にある文化を理解し、他者にもわかるように表現することである。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

本科目は、幼児教育科のディプロマポリシー「1.諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。」を達成するための科目である。

授業計画表

授業時間外の学修

日頃から美術に関心を持ち、美術館その他に足を運ぶことが望ましいです。

予習として事前に配布する資料を読んでおくことを求めます。

各回の予習には90分かかると想定されます。また、復習として、レジュメおよび板書事項の見直しをしてください。各回に復習には90分かかると想定されます。

予習・復習した事項を中心に、毎回、確認テストを行います。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
	○	○	◎

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行っていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている
考察力	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し説得力のある形で結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけようとするが、説得力に欠ける	調べた結果のみを提示するに留まり、課題への助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	意欲的に課題に取り組むとともに、他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる。	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
表現力	テーマについて自分なりに解釈し、説得力のある豊かな表現ができている。	テーマについて自分なりに解釈し、説得力のある表現ができている。	テーマについて自分なりに解釈したことをやや表現できている。	テーマについて表現することが難しいため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている。

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	40%	講義授業の理解度を評価する
成果発表	30%	演習授業での発表を評価する
授業への貢献度	30%	授業への取り組み・意欲を評価する
レポート		
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
------------------	---------------	-------------------

掲示板等に正解と講評を掲載する その都度解説、講評する	掲示板等に正解と講評を掲載する その都度解説、講評する	授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する
--------------------------------	--------------------------------	-----------------------------

ICTを活用した双方向型授業の内容

等 チャット 用 用 用	クリッカー、アンケート、小テスト 掲示板の活
--------------------------	---------------------------

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60~100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
選 グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション コメントシートの活用 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用		

教科書

授業時に資料を配布する。

参考書

「カラー版西洋美術史」高階秀聖監修 美術出版社

SDGsとの関連

に	4. 質の高い教育をみんな
---	---------------

特記事項等

①実務経験のある教員なし

②科目のナンバリング
LCU1201

③オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 231 研究室

出講日（授業のある曜日）月・火・水

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

hanada@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

①試験 0%

②レポート	50%	授業内容への理解度を評価する。
③平常点	50%	授業態度と確認テストを評価する。
④その他	0%	